

(8) 教育委員会からのサポート

ア 地域コーディネーターへのサポート

地域コーディネーターへのサポートについておたずねします。

教委問2 (1)

図8-ア

教育委員会からのサポート n=11
(コーディネーターに対して)

事業についての指導、助言

36%

45%

18%

コーディネーターからの相談へのアドバイス

36%

55%

9%

コーディネーターの研修や養成

45%

36%

9%

コーディネートのためのマニュアルや事例集などの作成

18%

18%

9%

55%

十分行っている

ある程度行っている

あまり行っていない

行っていない

「十分行っている」「ある程度行っている」と回答した割合では、「コーディネーターからの相談へのアドバイス」が91%、「コーディネーターの研修や養成」「事業についての指導、助言」がいずれも81%である。特に「コーディネーターの研修や養成」については45%の教育委員会が「十分行っている」と回答し、積極的にサポートしていたことが分かる。「コーディネートのためのマニュアルや事例集などの作成」については「十分行っている」「ある程度行っている」は36%であった。

イ 学校へのサポート

学校へのサポートについておたずねします。

教委問2 (2)

図8-イ

教育委員会からのサポート n=11
(学校に対して)

事業についての指導、助言

9%

82%

9%

学校からの相談へのアドバイス

45%

45%

9%

校長や教職員の研修

55%

18%

27%

学校訪問による学校側への意識向上のための働きかけ

9%

36%

27%

27%

ボランティア受入れのためのマニュアルや事例集などの作成

9%

45%

45%

十分行っている

ある程度行っている

あまり行っていない

行っていない

「十分行っている」の割合で見ると、「学校からの相談へのアドバイス」は45%であるが、「事業についての指導・助言」「学校訪問による学校側への意識向上のための働きかけ」「ボランティア受入れのためのマニュアルや事例集などの作成」については、9%（1市）だけであった。「校長や教職員の研修」については「十分行っている」と回答した教育委員会はなかった。

これらの様子から、教育委員会から学校へのサポートは、学校側からの問い合わせや相談に応じて行ったり、学校側の負担に配慮したりするサポートが中心であった様子がうかがえる。

ウ ボランティアへのサポート

ボランティアへのサポートについておたずねします。

教委問2(3)

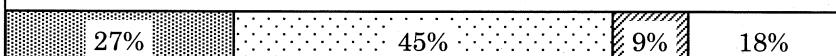
図8-ウ

教育委員会からのサポート n=11
(ボランティアに対して)

事業についての指導、助言



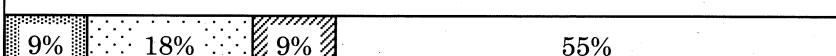
ボランティアからの相談へのアドバイス



ボランティアの研修や養成



ボランティアのためのマニュアルや事例集などの作成



■十分行っている □ある程度行っている □あまり行っていない □行っていない

「ボランティアからの相談へのアドバイス」は、72%の教育委員会が「十分行っている」「ある程度行っている」と回答している。「ボランティアの研修や養成」については、63%の教育委員会が「十分行っている」「ある程度行っている」と回答している。一方、「ボランティアのためのマニュアルや事例集などの作成」については、「十分行っている」「ある程度行っている」を合わせて、27%にとどまっている。

エ その他のサポート

その他、貴教育委員会が取り組んできたことは何ですか。(あてはまるものすべて)

教委問2(4)

図8-エ

その他、教育委員会が取り組んできたこと n=11

0% 20% 40% 60% 80% 100%

学校支援ボランティアの広報・募集



ボランティア（人材）バンクの作成



国や県が主催する研修会や会議への職員の派遣



事例成果発表会



事業評価



事業を行っていない学校への広報、普及活動



他の実施地域本部、実施校との情報交換



「学校支援ボランティアの広報・募集」「ボランティア（人材）バンクの作成」「国や県が主催する研修会や会議への職員の派遣」については 91%と、高い割合で取り組まれている。「事例成果発表会」82%、「事業評価」73%と続いている。教育委員会は、ボランティアの募集・人材バンク作成や先進事例の紹介等により、側面から実際の活動を支援していた姿がうかがえる。

オ 地域コーディネーターからの相談内容

地域コーディネーターからは主にどのような相談がありましたか。(3つまで)

教委問2(5)

図8-オ

地域コーディネーターからの相談 n=11

0% 20% 40% 60% 80% 100%

学校との連携に関するこ**と** 82%

事務処理、予算、物品等に関するこ**と** 55%

コーディネーター同士のコーディネートの方法・情報等の交換や共有に関するこ**と** 45%

地域住民への対応に関するこ**と** 36%

ボランティアへの対応に関するこ**と** 27%

保護者への広報やPRに関するこ**と** 27%

地域コーディネーターから教育委員会に寄せられた相談内容である。「学校との連携に関するこ**と**」が82%と最も多い。この事業によって配置されることとなった地域コーディネーターにとって、学校(教職員)との連携に戸惑いや課題があった様子がうかがえる。同時に、教育委員会担当者は地域コーディネーターのよき相談相手として活動を支えていたことが想像できる。

カ 学校からの相談内容

学校からは主にどのような相談がありましたか。(3つまで)

教委問2(6)

図8-カ

学校からの相談 n=11

0% 20% 40% 60% 80%

コーディネーターとの連携に関するこ**と** 73%

ボランティアを活用した教育活動に関するこ**と** 45%

事務処理、予算、物品等に関するこ**と** 45%

学校における組織体制に関するこ**と** 27%

ボランティアへの対応に関するこ**と** 18%

保護者への広報やPRに関するこ**と** 18%

「コーディネーターとの連携に関するこ**と**」が73%と最も多い。コーディネーターが学校との連携に戸惑いを感じていたことと同様に、学校も地域コーディネーターとの連携に戸惑いや課題があったことが分かる。「ボランティアを活用した教育活動に関するこ**と**」「事務処理、予算、物品等に関するこ**と**」が45%と続く。